

岩手県人会 創立60年・県人移住100年式典

達増知事ら大型慶祝団が来伯して祝福

各地県人会員など総勢300人が出席

ブラジル岩手県人会（千田曠曉会長）創立60周年、同県人移住100周年記念式典が、8月26日午前10時からサンパウロ（聖）市リベルダーデ区の電気工組合ホールで開催され、母県から達増（たつぞ）拓也県知事、佐々木順一県議会議長をはじめとする慶祝団40人が来伯して出席した。時折霧雨が降る寒さの中、会場にはサンパウロをはじめ、遠方からはベレン、隣国パラグアイのアスンシオン、イグアス、ピラポなど南米の岩手県人関係者合わせて総勢約300人が参加し、「還暦」の節目の年を祝った。

岩手県人会の歴史

ブラジルの岩手県人の先駆けは1918年に一関市出身の小野寺美代治氏が聖州奥地に入植したこと始まり、大正時代には26人の県人が移住したことが記録されている。また、戦後の57年に渡伯した千田安治氏が、移住当初から集めた260人の県人名簿をもとに、発起人5人とともに「親睦を旨として」創立総会を59年10月11日に開催した。初代会長の江刺家（えさしか）勝氏をはじめ、99年から約20年に及ぶ長期にわたって務めている現在の千田会長は7代目会長にあたる。

記念式典

当日の記念式典には、母県から達増知事、佐々木県議会議長、谷藤裕明盛岡市長、本田敏秋遠野市長、小野寺正徳金ヶ崎副市長をはじめ、慶祝団総団長で山田町議会議長と岩手県相撲連盟副会長を兼任している菊地光明氏、東根千太郎（あすまね）氏、東岩手日報社長、岩手県郷土芸能団（藤沢清美団長）など慶祝団一行約40人が来伯。来賓として野口泰在聖徳領事、山田康夫県連会長、菊地義治移民110周年実行委員長も出席した。

感動の「いわて芸能まつり」

民謡と舞踊、歌謡で盛り上げ

祝賀会後の午後1時45分からは「いわて芸能まつり」と題して場所を再び式典会場に戻し、母県から来伯した岩手県郷土芸能団一行が民謡、舞踊、歌謡公演を2部構成で披露。プロ集団による洗練された歌声と踊りが会場者を感動させた。同団からは藤沢清美がはじめ、副団長の中川愛

祝辞

岩手県知事

達増拓也

この広大なブラジルの国土に岩手県出身者の方々の心の拠り所として、結成された貴県人会が輝かしい発展を遂げられ、60周年を迎えられたことは誠に喜ばしい限りであり、心からお祝い申し上げます。活発な交流が展開さ



また本年はブラジル日本移民110周年にいたり、母国日本から遠く離れたブラジルの地に移住された方々は気候、風土、言語、習慣等のまったく異なる新天地において幾多の困難の中で険しい道を切り開き、今日の輝かしい地位を築かれました。会員の皆様方におかれましては今後ともブラジル社会の一員としてさらなる発展に寄与されまじうと、日本とブラジルとの友好親善のため一層のご尽力を賜りたいといたします。



式典で祝辞を述べる達増知事



達増知事（左）から激励金を贈られた千田会長

式辞

ブラジル岩手県人会会長 千田曠曉

日本移民110周年の記念の年に、ブラジル岩手県人会創立60周年式典を迎えるにあたり、母県岩手より達増拓也岩手県知事、佐々木順一県議会議長、谷藤裕明盛岡市長、本田敏秋遠野市長、小野寺正徳金ヶ崎副市長、佐藤正雄金ヶ崎副議長、佐藤正雄岩手県相撲連盟副会長、東根千太郎岩手日報社長、菊地光明山田町議員を団長とする吉田恭子県人会賛助会長と一行、藤沢清美団長率いる郷土芸能団一行、海外県人会会長皆様の臨席を頂戴しましたこと、心から御礼申し上げます。また、当地から野口泰三代公使がリオデジャネイロに着任。リオ州やミナス州・サンパウロ州を視察し、日本移民導入に最適地であると外務省に報告され、ブラジルへの日本移民導入へとつながりました。杉村公使は笠戸丸移民の墓に眠り、県人会で移住者の父と崇（あ）がめ、2008年当会創立50周年及び日本移民100周年の際には、公使の墓碑を改修しました。墓碑改修披露には達増知事はじめ、慶祝団の皆さんをお迎えして、共に除幕式を行って頂きました。岩手県人最初の移住者は、大正七年（1918年）に一関市出身の小野寺美代治さんが来られ、その後、記録によれば大正時代に26名が移住されております。さて、当県人会創立の経緯は、戦後移住者が出身者の氏名や所在地を一つ一つ調べ上げ、260名ほどが判明した時点で、移住先輩に相談して発会となりました。活動として更に、県出身者の動向調査を行うと共に、



記念のケーキカット

岩手県人最初の移住者は、大正七年（1918年）に一関市出身の小野寺美代治さんが来られ、その後、記録によれば大正時代に26名が移住されております。さて、当県人会創立の経緯は、戦後移住者が出身者の氏名や所在地を一つ一つ調べ上げ、260名ほどが判明した時点で、移住先輩に相談して発会となりました。活動として更に、県出身者の動向調査を行うと共に、



「雷神」による太鼓演奏

祝賀会後の午後1時45分からは「いわて芸能まつり」と題して場所を再び式典会場に戻し、母県から来伯した岩手県郷土芸能団一行が民謡、舞踊、歌謡公演を2部構成で披露。プロ集団による洗練された歌声と踊りが会場者を感動させた。同団からは藤沢清美がはじめ、副団長の中川愛



オオタチ・ミリアン・コーラスグループが『ふるさと』など5曲を披露



「雷神」による太鼓演奏



「いわて芸能まつり」で「花笠音頭」を踊る芸能団



「いわて芸能まつり」フィナーレでは「炭坑節」で会場が一体に